

既存ダムの洪水調節機能強化（事前放流等）について

- ◆ 昨年の台風 19 号等を踏まえ、政府において緊急時に既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用する「既存ダムの洪水調節機能強化に向けた基本方針(令和元年 12 月 12 日)」が定められる
- ◆ 国土交通省は、R2.4 月、既存ダムを活用するための「事前放流ガイドライン」を公表し、全国の主な水系（淀川水系を含む）において、出水期までに治水協定を締結することで調整された
- ◆ 今般、県内 10 ダム（治水 6、農業 4）にて、関係者と事前放流等を行うことで協議が整ったため、令和 2 年 5 月 29 日、淀川水系治水協定に合意したもの

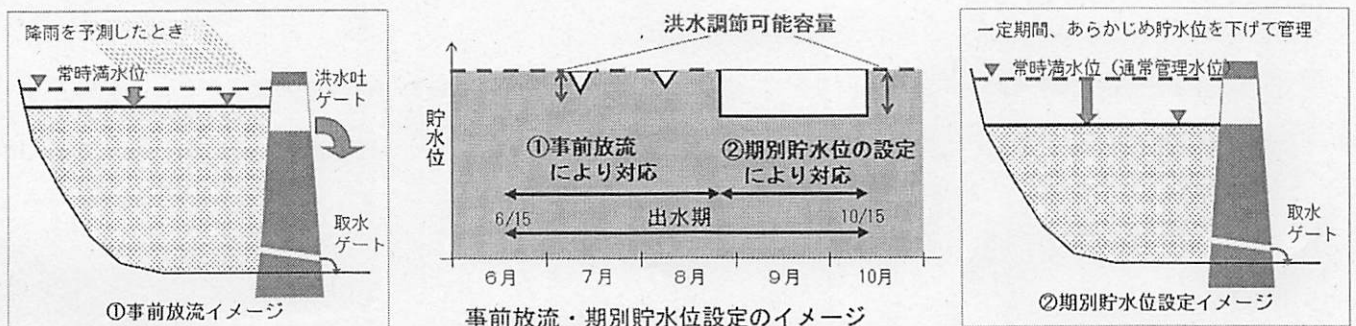
1. 検討における基本的な方針

- ◇ 既存ダムの有効貯水容量を洪水調節に最大限活用するにあたり、洪水調節容量を使用する洪水調節に加えて、事前放流および時期ごとの貯水位運用（以下「事前放流等」という。）により一時的に洪水を調節するための容量を利水容量から確保
- ◇ この取組によって水害の発生を完全に防ぐものではないため、引き続き水害の発生を想定したハード・ソフト面の対応が必要

2. 農業用ダムの事前放流等の対応状況について

- ◇ ダムの造成者が主体となって、ダム構造、ダム管理者の体制、関係土地改良区への影響等の水利用の状況を考慮し検討
- ◇ 「事前放流」と「期別貯水位の設定」について確保する洪水調節可能容量を検討
 - ①事前放流 : 過去の実績最大以上の降雨が予想される場合（基準降雨量を超える場合）に貯水位を下げるもの
 - ②期別貯水位の設定 : かんがい用水の需要が減少する時期等に一定期間、貯水位を下げるもの
- ◇ 対応期間 : 出水期（6 月 15 日～10 月 15 日）

<イメージ図>



3. 各ダムの設定内容

	利水者	基準 降雨量※ (mm/24hr)	事前放流	期別貯水位の設定	
			洪水調節可能容量 (万 m3)	期 間	洪水調節 可能容量 (万 m3)
永源寺 ダム	愛知川沿岸 土地改良区 関西電力	502	50	9/1～10/15	747
犬上川 ダム	犬上川沿岸 土地改良区 関西電力	385	72.5	—	—
蔵王 ダム	日野川流域 土地改良区	592	3.5	9/5～10/15	213
野洲川 ダム	野洲川 土地改良区	654	52	9/18～10/15	656

※ 基準降雨量は、永源寺ダム、犬上川ダムは、過去の実績最大降雨を設定。蔵王ダム、野洲川ダムは、治水ダムが近接しているため、治水ダムの基準降雨量により設定。

4. 今後の対応について

- ◇ 事前放流の運用状況や降雨状況等を踏まえ、取組内容の検討を行い、更に充実を図る予定